

都市計画たより

令和5年度版

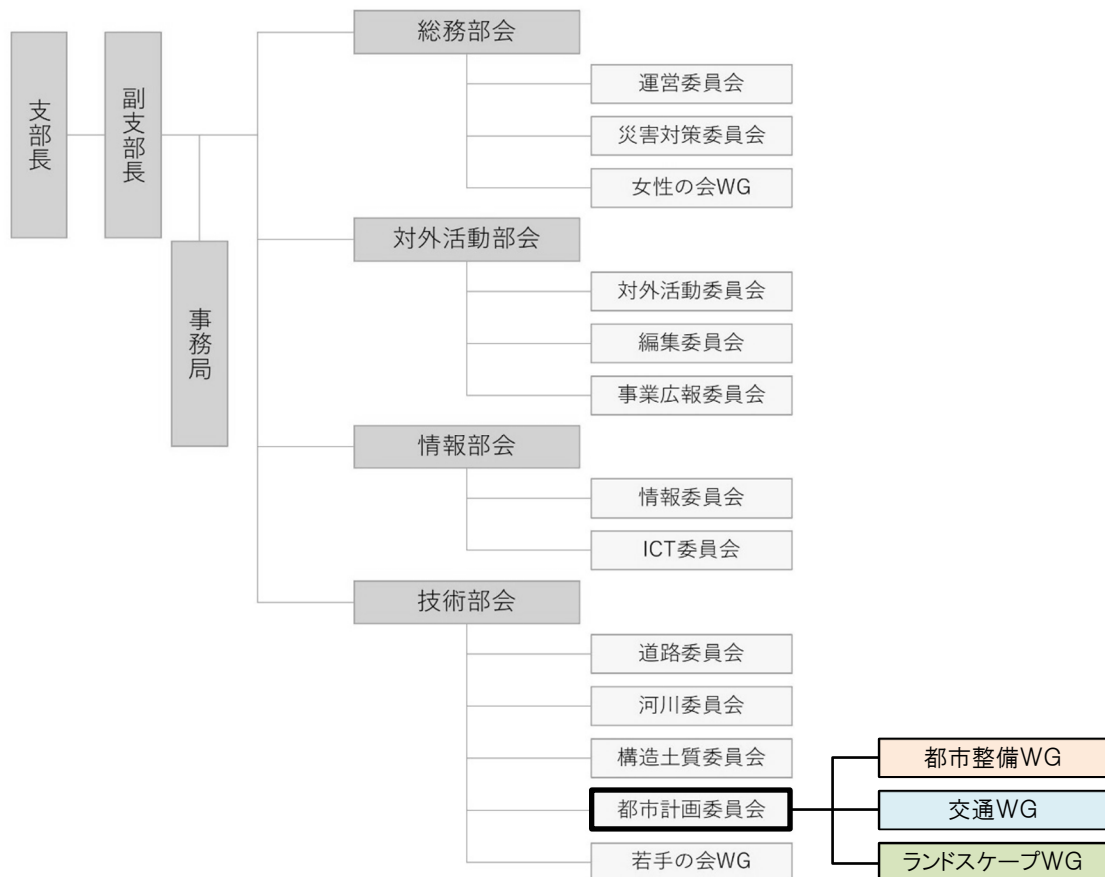


いなべ市 UGAKEI

目 次

はじめに	1
令和5年度 都市計画検討グループの活動内容	1
令和5年度 都市計画検討グループ総会及び合同意見交換会 報告	2
令和5年度 第33回 建設コンサルタンツ協会業務技術発表会 報告	7
令和5年度 都市計画検討グループ WG活動報告	8
・都市整備WG	8
・交通WG	10
・ランドスケープWG	12
■参考1：これまでの都市計画検討グループにおける活動内容（会員参加型）	14
■参考2：令和5年度 都市計画検討グループ会員及び各企画参加人数（会社数）	15
おわりに	15

【都市計画委員会及び3ワーキング（WG）の位置づけ】



【表紙写真】

撮影：ランドスケープWG 委員

はじめに

平素から、都市計画検討グループ活動に対して、ご理解・ご協力をいただき、ありがとうございます。

今年度の活動は、まず始めに「総会」と併せて、会員相互の技術交流を図る目的で、意見交換の場となる「合同意見交換会」を3年ぶりに行うことにしました。同業他社の皆さんと一堂に会し、今後の都市計画や3つのワーキング（都市整備、交通、ランドスケープ）についてワークショップ形式による技術交流を行い、今年度の活動方針を決めました。

そして、11月から12月にかけて、3つのワーキング活動を実施し、多くの会員の皆様に、ご参加いただきました。

会員の皆様のご協力・ご参加により、令和5年度の活動も無事終了しましたこと、心より感謝しております。また、都市計画委員の皆様におかれましては、業務多忙の中、各ワーキング企画を実現いただき、本当にありがとうございました。

今年度の講習会や見学会などの活動した内容を「都市計画たより」としてとりまとめましたので、ご高覧いただくとともに、来年度の活動の参考としていただき、ご意見等いただければ幸いです。

来年度も、皆様からの要望を踏まえて、「仕事の役に立つ魅力的な企画」を検討していきます。奮ってのご参加をお待ちしておりますので、引き続き、ご理解・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

都市計画委員長 河村和紀

令和5年度 都市計画検討グループの活動内容

令和5年度は、下記の通り「会員参加型企画」及び「委員会活動」を実施しました。

1. 会員参加型企画

参加者（参加社）

- 総会・合同意見交換会（6月26日）…………… 48名（15社）
- 都市整備WG講習・見学会（11月30日）…………… 27名（12社）
- 交通WG講習・見学会（12月11日）…………… 25名（19社）
- ランドスケープWG講習・見学会（11月13日）…… 31名（12社）

2. 委員会活動

- 愛知県震災復興都市計画模擬訓練：アドバイザー派遣（9月）
- 業務技術発表会運営支援（10月）
- 建設技術フェア2023in中部 学生交流ひろば対応（11月）
- 建設コンサルタントフェア2023in中部（12月）
- 発注者意見交換会（11月～12月）
- 都市計画委員会：毎月開催（全8回、4月～12月）

令和5年度 都市計画検討グループ総会及び合同意見交換会 報告

I. 開催日程等

- ・日 付：令和5年6月26日（月）16:00～19:30
- ・場 所：ウインクあいち 1203号室（集合形式）
- ・参加者：48名 15社



II. 総会の概要

- | | |
|----------------------------|-----------|
| 1. 開会 | 【市川副委員長】 |
| 2. 技術部会長挨拶 | 【三矢技術部会長】 |
| 3. 令和5年度都市計画委員の紹介 | 【河村委員長】 |
| 4. 令和4年度活動報告と令和5年度活動計画（案） | 【河村委員長】 |
| 5. 令和5年度WG活動方針（案） | 【各委員】 |
| 6. 令和4年度決算報告と令和5年度予算（案）の説明 | 【岡部副委員長】 |
| 7. 合同意見交換会 | 【各委員と会員】 |
| 8. 閉会 | 【河村委員長】 |

●令和5年度の活動計画

テーマ：都市計画を取り巻く動き、新しい情報の提供

活動方法：WG活動を主体にニーズに対応した見学会、講習会等の開催と交流の深化

合同WG：複数のWGや他の技術検討グループとの合同開催

都市計画検討グループの目的は「技術研鑽」と「技術者相互の交流」です。技術の研鑽を目標にして各グループ部員が集まり、お互いの交流の輪が広がる場づくり、学識経験者、官公庁、他の団体とも積極的に交流の場づくりができるように進めました。

令和5年度は、コロナが沈静化してきたことから、現場での交流形式による活動を主体とし、現場の空気感と交流による熱量が感じられる活動としました。

●令和5年度の各ワーキング別会員数

各WGとも、会員数は前年度の人数を上回り、合計237名となりました。ありがとうございました！

ワーキング別会員数

ワーキング	令和5年度	令和4年度	増減数
都市整備WG	110名	97名	13名増
交通WG	73名	69名	4名増
ランドスケープWG	54名	52名	2名増
合計	237名	218名	19名増

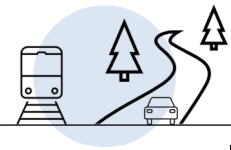
Ⅲ. 合同意見交換会

①都市整備ワーキングにおける意見



<p>興味のあるテーマ</p>	<p>①コンパクトシティ ⑤防災・減災 ②空き家活用 ⑥環境 ③ICT ⑦官民連携 ④住宅団地再生 ⑧都市空間</p>
<p>テーマに対する発言要旨</p>	<p><u>①コンパクトシティ</u> ・コンパクトシティと地方都市のあり方、市町村境界での立地適正化計画の課題と解決方法、人口減少社会での都市整備のあり方（区域区分の見直し等） ・地方創生の賑わい以外の対策、地方における高齢化対応（健康まちづくり） ・都市内の移動手段、シェアサイクルなどの「〇〇シェア」、駅とまちのつながり、デジタル田園都市の見学会、市街地と限界集落の中間程度の郊外地の再開発</p> <p><u>②空き家活用</u> ・空き家活用・賑わいづくり、企業誘致の事例、商店街におけるマンション建設、中心市街地活性化、地価から見た都心部のまちづくりの課題、木造住宅密集地域</p> <p><u>③ICT</u> ・ICT のまちづくりへの活用、人流データの活用例、ICT 活用の課題（プライバシー問題）、DX とコミュニティ、EC サイトと買い物活動、リスキング、PLATEAU</p> <p><u>④住宅団地再生</u> ・中心部における住宅団地再生のあり方、住宅団地での世代交代、大規模公共住宅</p> <p><u>⑤防災・減災</u> ・地方行政としての対策、都市部における事前復興計画の課題、盛土規制法関連、防災拠点としての道の駅、防災活動への住民参加の促し方</p> <p><u>⑥環境</u> ・再エネとまちづくり、脱炭素とまちづくり、グリーンインフラ</p> <p><u>⑦官民連携</u> ・住民団体のでき方・まちづくりでの動き方、民間活力の呼び込み方、コロナ禍でのNPO 法人における地域づくりの課題、PPP/PFI の成功事例、稼げる施設運営</p> <p><u>⑧都市空間</u> ・居心地の良い公共空間や滞在空間、道路上の賑わい創出、パブリックハック、やわらかい区画整理、産業景観、アートや窯元蔵元のまちづくりへの活用</p>
<p>★活動方針</p>	<p>・コンパクトシティ、賑わい・地方創生、既存ストックの有効活用について関心が高かった。この他の意見としては、リニア中央新幹線の開業を見据えた駅周辺のまちづくりや空き家・空き地の利活用による地域活性化があった。</p> <p>・このような状況を踏まえ、コンパクトシティ、賑わい・地方創生、既存ストックの有効活用に関連して、中部地方の具体的な動向を学ぶ見学会や講演会を開催する。</p> <p>・グループ1は、都市空間、官民連携について関心が高かった。万代駅（新潟）、オガール（岩手）、高蔵寺ニュータウン（愛知）など具体事例についての意見も出た。</p> <p>・グループ2は、コンパクトシティ、空き家活用、ICT について関心が高かった。</p>

②交通ワーキングにおける意見



<p>興味のあるテーマ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①デジタル技術 ②道の駅を拠点としたまちづくり ③観光地の交通対策 ④地方鉄道 ⑤道路ネットワーク（自動車・自転車歩行者） ⑥自動運転・新モビリティ
<p>テーマに対する発言要旨</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①デジタル技術 <ul style="list-style-type: none"> 交通分野へのAI技術の活用 ビッグデータ（人流データ）の活用 ②道の駅を拠点としたまちづくり <ul style="list-style-type: none"> 防災道の駅・防災設備 交通拠点 ③観光地の交通対策 <ul style="list-style-type: none"> 交通量増加への対策 季節集中型観光地の交通分散 まちのイベントと交通の関係 ④地方鉄道 <ul style="list-style-type: none"> 地方鉄道の活用・活性化 廃線跡地利用 ⑤道路ネットワーク（自動車・自転車歩行者） <ul style="list-style-type: none"> ネットワーク整備の変化 整備効果 自転車道ネットワーク 自転車歩行者の安全対策 ⑥自動運転・新モビリティ <ul style="list-style-type: none"> 自動運転技術・自動運転乗車体験 新しい移動方法 多様なモビリティの共存対策 パーソナルモビリティ 電動キックボード
<p>★活動方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近年の社会情勢や最新技術を踏まえたテーマに対する関心が高かった。 ・ ①デジタル技術を背景にした、②～⑥の各種テーマのあり方という枠組みで意見が取りまとめられた。 ・ 最新技術の体験や最新の取組の視察など、体験型の活動への要望があげられた。 ・ 本年度の交通WGは、過年度の実施状況や他のグループの企画状況を踏まえつつ、上記のテーマに関する見学会を中心に企画する方針とする。

③ランドスケープワーキングにおける意見



<p>学びたい テーマ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① ランドスケープ事業手法 ② ランドスケープデザイン ③ 都市と自然の共存 ④ ウォークアブル ⑤ 景観まちづくり
<p>テーマに 対する 発言要旨</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① <u>ランドスケープ事業手法</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 周囲との良好な関係ができていいる公園・農園の運営手法、まちおこしの拠点となっているランドスケープ ・ 成功事例 ・ P-PFI ・ エリアマネジメント ・ 官民連携による魅力的な広場 事例（鶴舞公園リニューアル、柳ヶ瀬、高槻市安満遺跡公園） ② <u>ランドスケープデザイン</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 土木と建築の関係（メインはどっち？）、利用者空間まわりにどういった施設があるか ・ 建築（施設）がメインとなって地域活性化した施設の事例 ・ 都市公園デザインの基礎を学びたい、公園の使い方設計 ・ 面白い公園の事例（どう活かされているか） ・ インクルーシブ公園（障害児の利用に特化した公園） ・ 最新技術の活用事例（DX、PLATEAU） 事例（ジブリパーク、静岡マリパーク） ③ <u>都市と自然の共存</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 都市のグリーンインフラとは→都市公園の整備はグリーンインフラそのもの ・ 植栽の維持管理をどのように調整しているか、植栽設計の手順・デザイン手法 ・ 自然（水辺など）の使い方、自然を感じるまちづくり 事例（リバーポートパーク美濃加茂、UGAKEI いなべ市、インザパーク沼津市） ④ <u>ウォークアブル</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ ウォークアブル事業（ベンチデザインなど） ・ 災害に強いまちづくり、安全な構造物 ⑤ <u>景観まちづくり</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 見栄えがよい構造物などによる景観デザイン ・ 田舎のランドスケープまちづくり 事例（犬山、有松、常滑、四間道）
<p>★活動 方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ WGの総意として決定に至っていないが、近年、話題となっている事例や興味のあるものをテーマに講習会や現地見学会を開催する。

(合同意見交換会の様子)



▲都市整備ワーキング



▲交通ワーキング



▲ランドスケープワーキング



▲集合写真

令和5年度 第33回 建設コンサルタンツ協会業務技術発表会 報告

10月31日(火)に「ウインクあいち」にて業務技術発表会を開催しました。今年度は、4年ぶりに集合形式での発表会でした。

業務技術部門【河川・都市計画部門】では10編の発表があり、5編発表した都市計画分野から、優秀賞1編が受賞されました。

◆ 優秀賞

広域アプリ連携による拠点施設からまちなかへの人流波及効果の
検証 ―愛知県岡崎市を対象として―
日本工営株式会社 栗山麻衣 氏



▲発表の様子

◆ 発表論文

- 社会実験を通じた乗降スポット活用型 AI オンデマンド交通の有効性検証
大田菜央 / 六反雅登 / 高村真一 / 岩上智裕 / 澤村悠貴
- 彦根城周辺パーク・アンド・バスライド社会実験の効果検証と今後の展望
澤田基弘 / 小倉俊臣 / 杉江 稔 / 阪上勇登
- 大規模商業施設の立地に伴う道路交通状況ライブ配信に関する施策展開
稲富貴久 / 市川貴也 / 伊藤英司 / 大田菜央 / 大塚翔太
- 広域アプリ連携による拠点施設からまちなかへの人流波及効果の検証
―愛知県岡崎市を対象として―
栗山麻衣 / 上田 透 / 増田泰知 / 広田懂子
- 建設コンサルタントが考える新たな交通インフラの社会実装への挑戦
(AI を活用したデマンドタクシー運行管理システムの導入業務)
増山 淳 / 五十嵐達哉 / 尹 鍾進 / 粟生啓之 / 吉田颯人

◆ 掲載論文

- 高潮浸水時における事務所庁舎の機能確保を目的とした浸水対策検討
山岡 寛 / 細貝秋一 / 赤澤哲也 / 川合伸宜 / 青井宏一
- 新しい市民参加手法による公園づくり構想
～市民意見の代表性・中立性を求めた市民参加プログラムの実践～
堀田旭宏 / 丸山 昇 / 小林高浩
- 地域資源の維持・向上を目的とした再整備計画及び樹木の伐採計画の立案
片桐達斗 / 木村 光 / 浅野誠一 / 三浦利夫 / 田中順己
- 業務代行者として、地元権利者、行政、進出企業との協調を意識したまちづくり
嶋津将徳
- 木曾三川流域における地域関係者を主体とした生態系ネットワーク形成を活用した地域づくり
近藤紘生 / 武山直史 / 阿部直己 / 長崎哲新 / 吉永順基

令和6年度は10月22日(火)に「ウインクあいち」にて開催いたします。4月から応募依頼が始まりますので、奮ってのご参加お待ちしております！

都市整備WG

I. 開催日程等

日 時：令和5年11月30日（木）13:45～17:30

場 所：見学・講習①：水上ビル（大豊ビル）

見学・講習②：emCAMPUS（エムキャンパス）

テーマ：「再開発」と「商店街でのリノベーション」の連携による魅力的な都市空間の創出

講 師：大豊商店街理事長・一級建築士事務所建築クロノ代表 黒野有一郎氏

株式会社アール・アイ・エー 名古屋支社 山田知樹氏

中部ガス不動産株式会社 まちづくり事業本部 emCAMPUS チーム 江間啓司氏

参加者：27名（12社）

II. 活動概要

多くの都市でコンパクト・プラス・ネットワークの取組が進められるなか、中心市街地においては人々が集い交流できる魅力的な都市空間の創出が求められています。そこで「大きな投資（再開発）」と「小さな投資（商店街でのリノベーション）」が連携して人の流れに変化を起こしている好事例として、豊橋駅前に立地する、再開発事業による「emCAMPUS」と商店街が形成されている「水上ビル（大豊ビル）」の見学会・講習会を開催しました。



▲通りを挟んで隣接する emCAMPUS(左)と水上ビル(右)

最初に、水上ビルを訪問しました。1964（昭和39）年に農業用水を暗渠化してその水路上に建設された全国的に珍しいビル群で、そのうちの1棟「大豊ビル」内に大豊商店街があります（1階が店舗、2階以上が事務所・住居）。

見学会・講習会では、大豊商店街理事長・一級建築士事務所建築クロノ代表 黒野様に商店街の歴史や水上ビルの成り立ちをはじめ、アートイベントやフリーペーパーによる情報発信、空き店舗解消に向けた大家・店子体験（大家と出店者のマッチング）等の商店街主体の取組をご紹介いただきました。様々な取組を経て、近年はリノベーションにより個性的な店舗が入居し、2021（令和3）年に空き店舗の解消が実現しました。emCAMPUS 完成後は、同施設の「まちなか広場」を活用して商店街のイベントが行われるなど、新たなつながりが生まれていました。「中心市街地活性化には歩いてもらう以外方法はない。魅力的な店を用意し、心地よい商環境を整えるのが我々の使命。」との黒野さんのお話が印象的でした。



▲見学会・講習会の様子（水上ビル）

質疑応答の内容（一部抜粋）

Q 「商店街でのリノベーション」を進める上で苦労した点は？

A 商店街の投資はフリーペーパーの発行やアーケードの改修、ベンチの設置等で、個々の店には投資していない。各店舗でリノベーションが行われ、それが徐々に広がっていった。

Q 水上ビル（大豊ビル）1階の店舗は賃貸のみか？購入も可能か？

A 購入も可能。購入の場合には商店街の組合員になってもらう。1階のみの使用にとどまらず、全階を使用、1階と2階以上を別々の人が使用、というように色々なケースが生まれている。

次に、「豊橋駅前大通二丁目地区市街地再開発事業」にて2021（令和3）年7月に一部開業したemCAMPUSを訪問しました。講習会では、emCAMPUSの設計・監理を担当された株式会社アール・アイ・エー名古屋支社 計画部次長の山田様から、当該地域の課題を解決するための事業目的やコンセプトの設定方法、事業性を確実に担保するための容積率等の設定の考え方、設計時の工夫、円滑な事業推進のポイント等、実務に携われた立場からの貴重なお話を聞くことができました。また、全体のお話を通して、地域の歴史やニーズ、課題を十分に踏まえながら、emCAMPUS単体で考えず、駅前通りや水上ビル等の地域とのつながりを重視して事業の計画・設計を進めることの重要性を改めて理解することができました。

emCAMPUSの見学会では、運営会社である中部ガス不動産株式会社の江間様から、施設の概要を説明いただいた後、屋上庭園やスタジオフロア（貸会議室、コワーキング）、飲食・おしゃべりOKのまちなか図書館、まちなか広場等を案内していただきました。まちの中心拠点としてemCAMPUSが今よりもっと愛されるよう、1F共用スペースを活用して展示コーナーを設けるなど、運営面での工夫を解説いただきながら館内を視察することができ、大変有意義な時間となりました。



▲講習会の様子（emCAMPUS）



▲まちなか図書館内のcafe（emCAMPUS）

質疑応答の内容（一部抜粋）

- Q emCAMPUSの事業費のうち、補助金はどれくらいを占めるか？
A 4割弱を占める。補助率が高かったことは、効率的に事業を進められた要因の一つである。
- Q 人口減少下で効果的なプロジェクトであるが、分譲マンション購入者の特徴は？
A 入居を開始している東棟はファミリー層が多い。市内からの住み替えが多い。
- Q emCAMPUSの整備により、どのようなまちなかの変化を感じているか？
A まちなか広場は市や地域のイベントで使われており、図書館は学生をはじめ若い世代の利用が非常に多い。施設が使われるようになり、人の流れも変わってきていると感じる。

今回の見学会・講習会を通じて、「大きな投資（再開発）」と「小さな投資（商店街でのリノベーション）」は相反するよう見えますが、互いに連携し、「地域のつながり」を大切にしたい取組を実践することにより、まちなかの活性化が図られ、新・旧が共存共栄する魅力的な都市空間が形成されていることを現地で実感しました。水上ビルにはおしゃれで個性豊かな店が建ち並び、emCAMPUSは多くの人に利用され、特にまちなか図書館は利用者の大半を学生、若者が占めていました。確実に人の流れは変わり、まちなかでの滞在時間も増えていると感じました。

参加者へのアンケートでは、見学会・講習会に対し「勉強になった」、「他の類似事例も見てみたい」等の意見を多くいただきました。興味・関心のあるテーマも挙げていただいたので、次年度の活動に活かしていきたいと思っております。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

I. 開催日程等

- 日 時：令和5年12月11日（月） 13:45～17:00
- 場 所：試乗：GIFU HEART BUS（岐阜市 自動運転バス）
見学：GIFU HEART BUS 遠隔監視室（岐阜乗合自動車株式会社）
講習：ハートフルスクエアG 大研修室
- テ ー マ：岐阜市の交通政策及び自動運転技術の導入に関する講演と自動運転バスの試乗
- 講 師：岐阜市役所 都市建設部 交通政策課 交通施策推進係 岩田大乘氏
BOLDLY 株式会社 市場創生部 社会実装課 丹野敬大氏
- 参 加 者：22名（14社）

II. 活動概要

人口減少や少子高齢化が進展する中、地域公共交通は利用者が減少し、運行を継続することが難しくなっています。多くの都市では、持続可能な地域公共交通ネットワークの構築に向けて様々な取り組みを進めていますが、運転手不足は深刻な問題となっています。その解決策の一つとして、バスへの自動運転技術の導入が検討されており、各地で社会実装に向けた実証実験が行われています。そこで、全国で初めて中心市街地での自動運転バスの運行を開始した岐阜市において、自動運転技術の最新動向を学ぶ講習会及びその技術を体験する試乗会を開催しました。

最初に、自動運転バス「GIFU HEART BUS」の試乗とその運行を監視している遠隔監視室を見学しました。岐阜駅から市役所までの中心部ルート（1周約40分）に乗車し、オペレーターから、車両に搭載されたLiDARによる前後左右の車両・歩行者や障害物等の検知状況、RTK-GPSやSLAMを活用した自己位置推定、手動操作時のコントロールによる操作方法等についてご説明いただきました。また、路上駐車回避は技術的には可能であるが、現在は手動に切り替え車線変更を行っていること、センサーの感度が高いため並走する大型車両や車道にはみ出した植栽・雑草にも反応しブレーキがかかること等、現状の問題点も聞くことができました。遠隔監視室では、運行している車両の現在位置や速度・急ブレーキの状況、車内の状況等をリアルタイムで確認している様子を見ることができました。また車内で利用者にトラブルがあった場合は通話して対応することはできるものの、車両トラブルがあった場合は遠隔操作まではできないこと等のお話をいただきました。



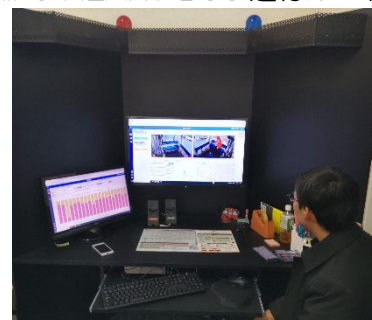
▲GIFU HEART BUS 運行ルート



▲自動運転バス



▲コントロールによる操作



▲遠隔監視状況

試乗・見学後の講習会では、まず、岐阜市役所交通政策課の岩田様から「岐阜市の交通政策」をテーマとして、公共交通における現状と課題、公共交通の必要性、市の交通施策についてお話をいただきました。岐阜市では路線バス及びコミュニティバスの利用者数は年間約 1,700 万人で推移していたものの、新型コロナウイルス感染症の影響により約2割減の年間約 1,400 万人に減少したこと、また岐阜県内のバス事業者の 73%が運転手不足の問題を抱えていることの説明がありました。このような状況においても、「移動の足を守る」「コンパクトで住みやすいまち」「人が集い賑わいあるまち」「環境にやさしいまち」「歩いて暮らせる健幸なまち」の実現には公共交通が不可欠であり、まちづくりと連携し持続可能な地域公共交通を構築するために取り組んでいる各種事業について紹介いただきました。その事業の一つとしてバスへの自動運転技術の導入が紹介されました。令和2年度から公道での実証実験を開始しており、今年度からは無人自動運転（レベル4）での社会実装を目指し、令和9年度までの5年間の継続運行が決定していること、さらには、自動運転バスが信号情報提供装置と通信して自動で信号交差点を通過する「信号協調」や自動運転バスが交差点に設置されたカメラと通信して自動で交差点を右折する「路車協調」といった新しいシステムを今年度中に運用開始し、よりレベル4の運行に近づけていくことについて、ご説明いただきました。

次いで、BOLDLY 株式会社社会実装課の丹野様から「自動運転車両の実用化支援と運行管理システムの提供」についてお話をいただきました。BOLDLY 株式会社は、現在実用化に向けて、全国で実証実験 14 箇所、実装 10 箇所を実施しているとのことでした。その中のある都市では、自動運転バスの継続運行に伴い、地域住民が走行中の危険な追い越しや走行経路にかかる路上駐車をやめるといった行動変容を起こし、交通ルールを守るようになったという事例が印象的でした。

【質疑応答（抜粋）】

Q. 自動運転バスの導入にあたり苦労した点は？

A. 地域の方へは事前説明により反対意見はほとんどなく、関係機関協議も早めに進めてきたため導入への支障はなかった。運行費用の予算化において、議会で経済効果の説明は苦労した。

Q. 運行開始後の苦情は？

A. 時速約 20km/h は遅いため、路上駐車を回避するために第二車線に入ると混雑するという苦情はある。

Q. 将来の展望は？

A. 現在のルートをそのまま市で運行することは考えていない。自動運転を認知してもらい、将来的には交通事業者に運行していただきたい。



▲講習会の様子

今回の試乗・見学・講習を通じて、地域公共交通における運転手不足の解決には、自動運転技術の導入必要性が高いことを認識するとともに、技術の着実な進歩を実感しました。一方で、無人自動運転（レベル4）の実装には、技術向上はもとより、車両購入・インフラ整備等の初期費用の高さや交通事故の責任に関する法整備、社会受容性の向上等の課題が残されていることもわかりました。今後、継続運行を通じて、これらの課題が一つずつ解決されていることを期待したいと思います。

参加者へのアンケートでは、「講習だけでなく試乗体験ができて良かった」「行政と技術者の双方の話が聞けて良かった」等の意見を多くいただきました。今後のWG活動の参考にしたいと思います。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

ランドスケープWG

I. 開催日程等

日 時：令和5年11月13日（月）9:00～17:00

場 所：見学：「にぎわいの森/UGAKEI」（三重県いなべ市）

講習：いなべ市役所行政棟 2F 庁議室

テーマ：いなべ市のまちづくりの拠点とヒュッケ

講 師：いなべ市役所 農林商工部 商工観光課 佐藤祐孝氏、都市整備部 都市整備課 太田正則氏、中世古真央氏、総務部 管財課 桑嶋幹人氏
（一社）グリーンクリエイティブいなべ 一橋俊介氏

参加者：31名（12社）

II. 活動概要

全国の自治体で地方創生のための取り組みが進められており、いなべ市は、選ばれるまちとなるために日々発展しています。その中で、いなべの豊かな自然、里山、農産品等の地域特有の資源（グリーン）を発掘し、都会的なものに磨き上げる感性（ローカルセンス）で都会の人々を魅了するモノ・コト・トキまで高めていく一連の創造活動「グリーンクリエイティブいなべ」の拠点となる「にぎわいの森/UGAKEI」の見学・講習会を開催しました。

講習会では、「にぎわいの森」については、管理・運営を行ういなべ市100%出資の（一社）グリーンクリエイティブいなべ 一橋俊介様より、グリーンクリエイティブいなべとは何か？土砂災害や獣害への対応から、自然にやさしい施設（グリーンインフラ）を取り入れた経緯や、事業運営面で、店舗誘致の努力、地域振興の成功をどのように導いたか、また、「いなべを舞台に輝く主人公を増やしたい」という将来展望などの貴重なお話をいただきました。



▲講習会の様子（いなべ市役所行政棟）



▲にぎわいの森見学会の様子

「UGAKEI」については、企画から携わられているいなべ市役所農林商工部商工観光課佐藤祐孝様より Hygge の世界観のこだわり、ノルディスク社へのアプローチ、Hygge の世界観を壊さないためのデンマークの「サードネイチャー」への設計・工事発注のいきさつ、工事の難しさや維持管理へのこだわり、レストラン棟の建設、今後の展望などのお話をいただきました。講習会の後、いなべ市役所総務部管財課桑嶋幹人様より、いなべ市役所施設内（行政棟、シビックコア）について案内していただきました。

午後からは、それぞれの施設について、にぎわいの森は（一社）グリーンクリエイティブいなべ橋俊介様より、建物の特徴、配置、植生の特性、維持管理の大変さや失敗談と改善点についての説明を受けました。UGAKEI はいなべ市役所農林商工部商工観光課佐藤祐孝様よりテント、キャビン内や Culture CIRCLES 内を案内していただき、普段見ることができない建物の細部や配置状況、周りの森林との調和について見学することができました。



▲UGAKEI 見学会の様子

帰りのバスでは、今回の講習会・見学会についての「Q1-1.利用者目線で魅力的だった点、興味をもった点」「Q1-2.今回学びたかったことについて、勉強・参考になった点」を参加者より発表していただき、非常に興味深く楽しい時間となりました。



▲UGAKEI の風景



▲集合写真（Culture CIRCLES 前）

【参加者アンケートの傾向】

Q1-1.利用者目線で魅力的だった点、興味をもった点

- にぎわいの森では、個性溢れる魅力的な店舗と森の中で自然を感じながら散歩できる点が魅力的だった。都市部では見られない樹種の植栽もよかった。
- シビックコア棟（食堂）の休日開放や大屋根でのイベントなど開かれた市役所で暮らしに根付いているところがよかった。市役所脇で利便性が高いのも魅力である。
- UGAKEI では、何も無い空間の魅力、手つかずの自然を活かしているところがよかった。世界観にこだわった特徴的なデザインの建物が魅力的で、カルチャーサークルの空間やあたたかい木の香りなどでヒュッグを体験できた。

Q1-2.今回学びたかったことについて、勉強・参考になった点

- 担当者の熱意や行政からの積極的なアプローチ（テナント誘致手法、設計事業者の選定）、運営手法、まちづくり戦略などについて勉強になった。
- 供用開始してから改善した給水、舗装、電源の例や、グリーンインフラの実例、多彩な植栽計画が参考になった。

■参考1：これまでの都市計画検討グループにおける活動内容（会員参加型）

【委員会全体の講習会・見学会】

- H24：見学会 近江八幡市一水郷巡り、八幡重要伝統的建造物群保存地区
- H25：講習会「エリアマネジメント～街育ての担い手はだれ？」
- H28：講習会「人口減少が進む都市において中心市街地や郊外住宅団地の再生」
「持続性を確保するにはどのようなまちづくりを進めるべきか」

【都市整備WG】

- H23：全体講習会「事前復興計画のススメ…この国の明日を紡ぐ」
- H23：講習会「名古屋港と産業防災」
- H24：見学会「中心市街地の昨日・今日・明日」（東海市、半田市）
- H25：講習会「リニア中央新幹線と名古屋」
- H25：見学会（交通WGと合同開催）「公共交通を活用した地域活性化
及び歴史を活かしたまちづくり視察」（恵那市）
- H26：講習会&見学会「伊勢河崎のまちづくり」「三重県防災拠点」（伊勢市）
- H27：講習会「歴史的視点から見た集約型都市構造とは？」（PART1、2）
- H28：講習会&見学会「縮小期のまちづくり（豊川稲荷表参道・御油のマツ並木）」（豊川市）
- H29：講習会&見学会「錦二丁目まちづくり協議会」（名古屋市中区）
- H30：講習会「公共空間の有効活用と都市のマネジメント・維持管理のあり方」
- R 1：講習会「スポンジ化した地域の面的再生等へ向けた取組事例」（山形県鶴岡市）
- R 2：講習会「スマートシティとこれからの都市計画：with/post コロナの都市像」
- R 3：講習会「活力のある都市をつくる」（岐阜市）
- R 4：講習会「ICT技術を活用したデータ収集とまちづくりへの活用」（名古屋市）
- R 5：講習会&見学会「再開発と商店街での連携による魅力的な都市空間の創出」（豊橋市）

【交通WG】

- H23：全体見学会「りんご並木が美しい丘の上のまち飯田」のまちづくり（長野県飯田市）
- H24：講習会「自転車利用環境整備を考える」
- H25：見学会（都市整備WGと合同開催）
- H26：見学会「最新の安全対策技術情報及び施工事例について」（阿久比町）
- H27：講習会&見学会「四日市市における交通環境の取り組みについて」
「東海道日永郷土資料館&四日市あすなろう鉄道」（四日市市）
- H28：講習会「ビックデータの活用・可能性と展望」
- H29：講習会「自動運転が創る未来の都市交通のあり方」
- H30：講習会「道の駅をいかしたまちづくり・地域活性化と今後の展望」
- R 1：講習会「住みやすい都市空間デザインのための空間情報分析」（瀬戸市）
- R 2：講習会「技術者経歴50年の歩みと今後への提言」
- R 3：講習会&見学会「岡崎市 QURUWA 地区」（岡崎市）
- R 4：講習会「人、そして子供に優しいまちづくり・多様なデータを活用して」（名古屋市）
- R 5：講習会&見学会「最新の自動運転技術や都市交通への導入方法を学ぶ」（岐阜市）

【ランドスケープWG】

- H23：見学会「土木学会デザイン賞受賞公園の設計コンセプトを学ぶ」（各務原市）
- H24：全体講習会&見学会 滋賀県近江八幡市での講習会・見学会（滋賀県近江八幡市）
- H24：見学会 H22 講習会講師による愛知県半田市の現地見学会（半田市）
- H25：見学会「あいちサトラボで里山づくり活動を学ぼう」（愛・地球博記念公園）
- H26：講習会&見学会「花フェスタ記念公園 指定管理者制度の現状と課題」（可児市）
- H27：講習会&見学会「公園における集客力を高める工夫を学ぶ」（刈谷市）
講習会「全国都市緑化あいちフェアはどこまで造れたか」
- H28：講習会&見学会「官民連携による公園の集客力を高めた工夫（梅小路公園）」（京都市）
- H29：講習会&見学会「最新事例からランドスケープデザインを学ぶ」
（草津川跡地公園・ラコリーナ近江八幡）」（滋賀県草津市、近江八幡市）
- H30：講習会&見学会「具体的事例をとおしてランドスケープデザインを学ぶ」
（太田川駅前どんでん広場）」（東海市）
- R 1：講習会&見学会「具体的事例をとおしてランドスケープデザインを学ぶ」
（天理駅前広場コフフン、道の駅レスティ唐古・鍵と史跡公園）」（奈良県天理市）
- R 2：講習会&見学会「コロナ禍で、我々が取り組むべきパブリックスペースの
あり方について学ぶ（Hisaya-odori Park）」（名古屋市）
- R 3：講習会&見学会「小幡緑地 オバッタベッタ・ヤネル」（名古屋市）
- R 4：講習会&見学会「VISON 事業モデル・土木インフラについて」（多気町）
- R 5：講習会&見学会「いなべ市のまちづくりの拠点とヒュッゲ」（いなべ市）

■参考 2：令和5年度 都市計画検討グループ会員及び各企画参加人数（会社数）

○令和5年度参加人数一覧表

単位（会員：人、会社：社）

項目	令和4年度		令和5年度		増減 (R5-R4)	
	会員	会社	会員	会社	会員	会社
都市計画検討グループ会員	218	30	237	27	19	▲3
都市計画検討グループ総会 合同意見交換会	109	21	48	15	▲61	▲6
都市整備 WG（講習・見学会）	43	22	27	13	▲16	▲9
交通 WG（講習・見学会）	49	28	25	19	▲24	▲9
ランドスケープ WG（講習・見学会）	28	12	31	12	3	0
参加数（のべ）	229	83	131	59	▲98	▲24

※今年度の各 WG 活動は、集合形式のみで実施しました。

その結果、昨年度の WEB 形式の併用に比べ、参加者が大きく減少しました。

おわりに

会員の皆様のご協力のもと、令和5年度の都市計画検討グループの活動も無事に終えることができ感謝しております。

今年度は、コロナの沈静化により、従来から実施している集合形式による現地見学会と講習会を実施しました。移動時間がなく、参加しやすい WEB 形式より参加者人数は減りましたが、現地でしか得られない空気感や講師の熱量を他社も含めた技術者と共有し、意見を交わすことは WEB 形式や日常業務では得られないことであり、とても有意義であったと思っていますが、参加された皆さんは、いかがでしたでしょうか？

来年度も集合形式での活動を基本としますが、WEB 形式を併用するなど、状況に応じた対応を行い、改善に努めながら実施していきたいと考えています。

皆様の要望を踏まえ、「技術研鑽」、「技術者相互の交流」を目的に活動していきますので、令和6年度も、引き続き、よろしくお願いいたします！

都市計画たより 令和5年度版

発行日：2024年2月29日

発行者：都市計画委員会

————— 告 知 —————

令和6年度の「都市計画委員会」の委員を募集します。

3月の公募で、欠員による1名程度を予定しています。

是非、ご応募いただき、

一緒に、都市計画を考えていきましょう！

(公募は、協会より別途案内させていただきます。)